

令和3年度 全国学力・学習状況調査 江津市の結果概要

江津市教育委員会 学校教育課

I 調査の概要

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象 小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査実施日 平成30年5月27日(木)

4. 調査の内容

(1) 教科に関する調査 国語、算数・数学はそれぞれ次の①と②を一体的に出題

①身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)

学校に対する調査(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等に関する調査)

5. 調査を実施した学校数・児童生徒数 ・小学校 市内7校 161名 ・中学校 市内4校 180名

II 教科に関する調査の結果

(1) 小学校

小学校	江津市	島根県	全国
国語	60	63	64.7
算数	63	67	70.2

差は見られない $< \pm 2$
やや下回る(上回る) $\pm 2 \leq < \pm 3$
下回る(上回る) $\pm 3 \leq < \pm 4$
大きく下回る(上回る) $\leq \pm 4$

(・:概況 ○:強み △:弱み 全国:各教科における全国平均正答率)

国語	<p>・領域別では、「知識・技能(言葉の特徴や使い方に関する事項)」は、全国と差は見られなかった。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域について課題がある。</p> <p>○漢字を文の中で使うことはよくできている。</p> <p>△「目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付ける」「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」ことに課題がある。</p>
算数	<p>・領域別では、「測定」は全国と差は見られなかった。「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域について課題がある。</p> <p>○速さと道のりを基に時間を求める式に表すことは比較的できている。</p> <p>○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることはよくできている。</p> <p>△図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。</p> <p>△データを二次元の表に分類整理したり、帯グラフで表された複数のデータを比較し示された特徴を捉えたりすることに課題がある。</p>

(2) 中学校

中学校	江津市	島根県	全国
国語	61	62	64.6
数学	46	53	57.2

差は見られない $< \pm 2$
 やや下回る（上回る） $\pm 2 \leq < \pm 3$
 下回る（上回る） $\pm 3 \leq < \pm 4$
 大きく下回る（上回る） $\leq \pm 4$

国語	<p>・領域別では「話すこと・聞くこと」は全国と差は見られなかった。「書くこと」「読むこと」「知識・技能(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)」について課題がある。</p> <p>○漢字を文の中で使うことはよくできている。</p> <p>○話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることはよくできている。</p> <p>△書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係、文章の構成の工夫を理解して書くことに課題がある。</p> <p>△文章に表れているものの見方や考え方を捉え、引用した表現から登場人物の心情や行動について自分の考えを具体的に書くことに課題がある。</p> <p>△相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題がある。</p>
数学	<p>・すべての領域について課題がある。全国と比較して高正答率者が少なく、低正答率者が多い。</p> <p>○「中央値」についての意味理解及びそれを求めることは概ね身についている。</p> <p>○与えられた表やグラフから、必要な情報を読み取ることができている。</p> <p>△事象を数学的に解釈し、事柄の特徴や問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。</p> <p>△「図形」において根拠を基に説明することに課題がある。</p>

Ⅲ 児童生徒質問紙・学校質問紙調査(意識調査)

(1) 学校生活・自尊感情・自己有用感に関わること

○「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている」児童生徒の割合は全国を大きく上回る。

△「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合が全国を下回る。

(2) 地域に関わること

○「今住んでいる地域の行事に参加している」児童生徒の割合は全国を大きく上回る。

(2) 学習に関わること

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」児童生徒の割合は全国を上回る。

○「学級活動における学級での話合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」児童や「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と思う生徒の割合が全国を上回る。

△「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と思う児童生徒の割合が全国を下回る。

△平日1時間以上家庭学習をしている児童生徒の割合が全国を大きく下回る。

△平日1日当たり3時間以上テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、スマホを使ったゲームも含む)をしている児童生徒の割合が全国を上回る。

IV 今後の対応

◇成果・課題の把握と個別指導の充実

各校において学力の成果（強み）や課題（弱み）について把握し、結果に基づいた補充学習や発展学習等の個別指導を充実させる。組織的な対策を立てて児童生徒への学習内容の定着を図る。

◇授業の質の向上

- ・指導者が各教科等の授業・単元の目標やねらいを明確に示す際に、学習指導要領で目指す資質・能力を意識したものが示されるようにする。授業では自分の考えを根拠をもって説明したり、友だちと比較・検討したりする場面を取り入れる等、指導法の改善を図る。
- ・「授業改善アクションプラン」に基づいた主体的・対話的で深い学びの視点での組織的な授業改善を推進し、「江津市学力育成サイクルプラン」のさらなる充実を図る。

◇家庭学習の充実

- ・家庭学習の時間確保と内容充実、習慣化を図るために、学校での学びと関連した課題を取り入れたり、タブレットドリルや学習プリント配信システムを活用したり、家庭学習の意義を明確に伝えたりするなど、家庭と連携した取組を一層すすめる。また子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するための方策を検討し、メディアの活用に関する家庭内啓発に取り組む。

◇地域に関わる学習の充実

児童生徒の地域への愛着や貢献意欲を高めるために、今後も「江津市ふるさと・キャリア教育」を推進し、児童生徒に付けさせたい力を明確にして、系統的な探求の過程を意識した授業を進めていく。

◇学校訪問の実施

指導主事による全国学力・学習状況調査結果をふまえた指導改善に関わる学校訪問を実施し、組織的指導改善や個別指導の充実に向けて働きかける。